

TOKYO

TAKIKAWA

東京滝川会だより

第 **56** 号

平成24年9月発行

〈事務局〉

滝川市大町1丁目2番15号

滝川市経済部産業振興課

TEL: 0125-28-8009 FAX: 0125-23-5839

E-mail: syoukou@city.takikawa.hokkaido.jp

URL: <http://www.city.takikawa.hokkaido.jp>



幅広い仕事でノウハウ活かし 民間公募 元商社マン 新副市長「力尽くす」

道内初の民間公募の鈴木光一副市長（62）が今年4月、滝川市役所で辞令を受け取り、勤務を開始しました。鈴木副市長は「仕事の現場に座りたい」と市長室や副市長室が並ぶ5階ではなく、経済部や農政部、建設部がある4階に部長らと並んで自らの席を設置。「滝川のセールスポイントを発見して伸ばしたい」と決意を語り、辞令交付式では「民間企業も行政も、時代の要請に合わせて競争力のある分野を伸ばし、悪い部分は変えるべきだ」という点で基本的には同じなのでは。違いがあるとすれば危機感の強さや競争力への意識だ。民間は市場の変化に常に敏感。自治体も変化に対応しなければ取り残されるという危機感を共有した方がいい。」と職員に訴えかけました。鈴木副市長は東京都出身で早大卒。三井物産本店業務部長や三重県立宇治山田商業高校の公募の民間人校長、国際支援のNPO法人事務局長などを経て、滝川市副市長に選任されました。副市長の公募は前田市長の公約の1つ。着任してから約半年が経過し、民間企業での豊富な経験と人脈を生かした滝川の産業振興、企業誘致活動に奔走し、5月26日に開催した本会役員会にも出席しました。

そんな中、経済活性化については「企業誘致も大切だが、頑張っている地場企業を支援する方が優先では。現存の企業の新商品開発や商品の競争力向上を支援することにも力を入れていきたい」と語り、地元企業の応援や滝川産の食材を使用した物産の開発等にも携わっています。今後、様々な経験の中で培ってきた感覚や人脈を行政の中で活かし、滝川市の魅力を発信していけるよう、新副市長の活躍に期待が高まります。

「滝川市」で繋がるコミュニティを 滝川高校同窓会発足にむけ動き

今年5月に開催された東京滝川会役員会で、関東圏による北海道滝川高校同窓会の設立が検討されました。

滝川高校は昭和4年、地域の強い要望を受け滝川高等女学校として創設されて以来、滝川女子高等学校、滝川東高等学校と校名を変更しながら変遷し、卒業生は、平成24年3月で、23、272名を数えています。

役員会では、一の坂同窓会が解散したことにより当会へ多額の寄付を頂いたことを踏まえ、「滝川市を応援したい」「同郷の仲間とコミュニティを持ちたい」という想いを持ち続けている方々のために同窓の輪を広げたい、との意見が交わされ、滝川高校を卒業した役員の中で同窓会発足に向けた取組について検討されました。これは滝川高校をご卒業され、現在東京近郊にお住まいの方を対象としたもので、今後正式発足に向け発起人会などが予定されています。



面積拡大 全面バリアフリー化

滝川駅前を再開発

市方針 28年度完成めざす

滝川市はJR滝川駅の駅前広場について再開発する方針を固めました。面積を1.3倍に広げ、バスの乗降場4台分、駐輪場440台分などが新設される予定です。駅前広場は現在約4850平方メートルでタクシーの停車場や駐車場、イベントなどを開く徒歩利用スペースなどがありますが、バスが乗り入れられず高齢者や障害者の移動が不便なのに加え、広場内に専用駐輪場がないため近くの歩道に違法駐輪が多く、さらに点字ブロックが設置されていないことなども課題となっていました。このため面積を6518平方メートルまで拡大し、バスの乗降場や駐輪場の新設、段差解消など全面的なバリアフリー化のほか、使用されていない地下道の廃止、駅前交番の移転、基準を満たしていない道道滝川駅停車場線との交差点の角度改善などが予定されています。

総事業費は5～10億円規模を見込んでおり、年内には計画を決定し26年度の着工、28年度の完成を目指します。



滝川市文京町にキャンパスを構える國學院大學北海道短期大学の校舎

市民が憩うキャンパスに

國學院道短大30周年

國學院道短大が今年で開学30周年を迎えます。4月より7代目学長に就任した田村弘学長は地元出身の初の学長で、滝川市長を2期務め、「地元でのインターンシップ拡充や短大の持つ知的財産の有効活用をさらに図り、地域の役に立てる短大にしたい」と意欲的です。また、「地域の人が来やすい学校づくりを目指す」とし、市民の利便性を高める校舎の改修が進められています。

開学30周年記念式典は10月27日に開催予定です。

6年連続作付面積日本一!!

たきかわ菜の花まつり2日間で4万4千人来場

滝川市の菜の花の作付面積は150畝で6年連続日本一。6月2日より「たきかわ菜の花まつり2012」が江部乙町14丁目の菜の花会場などで開幕し、期間中、4万4千人に鮮やかな黄色の畑を楽しんで頂きました。



今年も作付面積日本一の菜の花畑

横綱白鵬関も

開幕2日目には例年来滝している横綱白鵬関も会場に訪れ、市民の皆さんと交流したほか「白鵬米」の田植え等も行ったため、道内外各地から大勢の観光客が滝川市を訪れました。

白鵬関が滝川市の観光大使に就任してから今年

で3年目。今回は来滝事業の一環として北海道知事公館を訪れ、高橋はるみ知事への表敬訪問を果たしました。白鵬関は知事に白鵬米ミニ俵等を贈り、多くの報道陣に向けて滝川市や菜の花まつり、白鵬米等をPRしたほか、「今、北海道出身の力士がいなくて寂しい。今回はスカウトも兼ねて来ました。」と、知事と談笑する一幕もありました。



白鵬関（左から2番目）より白鵬米や反物などを贈られ笑顔を見せる高橋はるみ知事（中央）

そのほか、江部乙町の道の駅からJR滝川駅前までの国道沿いなどに菜の花を植え、駅前広場で黄色い風船千個を青空に放つなど滝川市を「幸せ色」に染める市民参加型のイベント「イエローロードプロジェクト」の完了セレモニーに出席し、イエローロードの開通を大勢の市民とともに祝いました。

滝川市温水プール

札幌の企業に無償譲渡

平成24年3月31日より閉館していた滝川市温水プールが、札幌の企業を母体とした「滝川スポーツクラブ」に無償譲渡され、トレーニング機器も導入した会員制の複合スポーツ施設として9月1日にリニューアルオープンしました。

老朽化のため、3カ月間の改修工事が行われ、バリアフリー化も実現。キッズスクールコースなどの充実したプログラムのほか、ヨガやダンスを楽しめる明るく広々としたスタジオや、テレビ付きランニングマシンが並ぶフィットネス・トレーニングジムに加え、浴室やサウナも完備されており、市民の健康づくりに大きく寄与することを期待されています。

滝川図書館利用者・貸出冊数が倍増

旧図書館が老朽化したことから、市立図書館が市庁舎2階に開館して半年、利用者と図書貸出冊数が倍増しています。市役所や町村役場に図書館が入るのは道内で初めての取り組み。休館日

を減らし、利用時間を延ばすなどの利便性が向上したことにより、オープン以来たった半年で通算来館者が5万人に達しました。



約1,000平方メートルの広々とした館内でのびのびと本を読む子どもたち

市役所庁舎の隣には官庁通りを隔て市立病院があり、商店街や銀行も近く、日常の生活の中で立ち寄りやすい場所であることや、学校帰りの学生や生徒が待ち合わせ等にも利用するほか、本が手に取りやすい低い書架を導入したことにより、館内全体に解放感が生まれたことも利用者増加に繋がりました。

そらぶちキッズキャンプ本格始動

難病の子どもたちのための「そらぶちキッズキャンプ」が、いよいよ本格

的な活動を始めました。計画が具体的に動き始めてから8年余り、幾度ものプレキャンプを経て、自前の専用施設も全棟完成し、念願のスタートです。

そらぶちキッズキャンプ

「そらぶち」は滝川市の名の由来となった「滝下る川」という意味のアイヌ語。市が無償貸与した丸加高原の約16ヘクタールに建設された常設キャンプ場で、宿泊棟2棟と食堂・浴室棟、案内所、保健室が整備され、車いすで渡れるツリーハウスや木道も設けられました。米国の施設をモデルに2004年3月、小児科医師や公園づくりの専門家たちが「創る会」を設立し、計画が動き出しました。公益財団法人が運営し、滝川市医師会や市立病院が支援しています。

8月には全国から集まった小児がんや染色体異常、免疫不全など重い病気を抱えた子どもたちが、医師や看護師の支援のもと滝川市に集まり、完成式では同キャンプの構想当初から奔走してきた松本守理事（東京滝川会副会長）が「みなさんは施設ができて最初のお客様。充分楽しんで欲しい」と子どもたちに語りかけました。普段外に出る機会が少ない子どもたちは、宿泊棟に泊まりながら「はたるの森」での散歩、Tシャツの草木染めなどの体験を満喫。そのほか、スタッフがアシストする乗

馬や本格的なアーチェリー体験などを楽しみ、森の中ではハンモックで横になるなど澄んだ空気の中で涼しい夏を過ごしました。子どもたちはこのキャンプで、たくさんの友達と滝川市で過ごした思い出を作ることができます。



同キャンプで初めての乗馬体験を楽しむ子どもたち

家族単位で参加できるファミリーキャンプも週末を中心に計画されており、普段子どもにつきっきりで親に休息の場や時間を提供するレスパイトキャンプも開催されます。

また、国内初の車いすに乗ったままつり橋を通って出入りできるツリーハウスも完成し、森の中の地上8メートルのハウスからは木々の枝や鳥たちを間近に見ることもできます。

同キャンプは寄付による運営を目指しており、これまでに篤志家や企業等から計約10億円の寄付が集まりました。今後も継続的に施設を運営していくためには寄付とボランティアによる応援が欠かせません。実績を積み重ね、各方面への支援を呼びかけ続け、未来に繋げていくことが求められます。

モンゴルで滝川の米作りを

白鵬関の願い かなえたい

今年から横綱白鵬関の「祖国モンゴルで米作りを」との願いをかなえるため、3人の派遣団がモンゴルを訪れ、気候条件など障害も多いなか、「実りの秋につなげ、モンゴルに貢献したい」と田植えを指導しています。派遣団はモンゴル出身の国際交流員と市内農家、市農政課の職員。2週間ほど同国中央部のウブルハンガイ県を訪れ、水田をゼロから手作業で整備しました。水稲は現地で育苗を進めるため、派遣団は「すべては手探り。無事に苗が育っているかなど不安は大きいですが、まずは現地に赴き、第一歩を踏み出す。」と力強く語ります。同国では米の需要はありますが、本格的稲作の成功例はありません。

せん。初挑戦の今年は量1枚ほどの面積ですが、今後も2〜3年は専門家派遣を続ける見通しです。

そのことを受けて白鵬関は「米作りが成功すれば新たな歴史の始まりになる」と、モンゴルと滝川市の今後の国際交流にも期待を寄せています。

今年は東京滝川会で出店

北海道フェアin代々木

例年、松尾ジンギスカンのブース横にて会員交流会が行われている「北海道フェアin代々木」ですが、今年度は東京滝川会としてフェアに出店することとなりました。今年の開催日は10月5日(金)〜8日(月※祝)の4日間。昨年は開催期間中で28万人ものお客様を動員した秋の一大イベントです。フェアでは、滝川産SPF豚肉を使用した手作り本格ソーセージを、お持ち帰り用の冷蔵パックと、その場で食べて頂ける焼きソーセージにして販売するほか、滝川の特産品である合鴨、江戸乙で収穫されたリンゴや新鮮な農産物などの販売を予定しており、ご来場頂く多くのお客様に向け、滝川市の魅力を発信します。ご家族ご友人をお誘い

い合わせのうえ、是非ご来場ください。

滝川工野球部全道大会へ!!

34年ぶり出場 開幕戦制す

滝川工業高校野球部は7月、甲子園出場に向けた最後の関門となる第94回全国高校野球選手権北海道大会へ34年ぶりの出場を果たしました。

7月14日、帯広の森野球場で開幕試合が開催され、同校は大会出場校中最も少ない部員19人で、粘り強い戦いを見せました。初戦は緊張感に包まれる中、4回まで両チームともに「0」が並んだ静かな立ち上がりでしたが、5回以降、好機を確実に生かして先制のライト前タイムリーヒットを打ち、流れを引き寄せ3-1で釧路湖陵を破り、初戦を突破しました。

準々決勝では1回、敵失から先制しましたが、2回以降三塁を踏むことができず、富良野に9-1の7回コールドゲームとなり力負けとなりました。しかし、北大会への出場は選手たちの結束力をさらに高め、大きな自信となりました。今後のますますの活躍に期待が高まります。

新規会員募集

東京滝川会では新規会員を随時募集しています。首都圏在住で滝川市に関わりのある方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

【事務局】

滝川市大町1丁目2番15号

滝川市経済部産業振興課

Tel:0125-28-8009

Fax:0125-23-5839

E-mail:syoukou@city.takikawa.hokkaido.jp

URL:http://www.city.takikawa.hokkaido.jp

ふるさと納税 ご協力に感謝いたします。

昨年度、滝川市ふるさと納税白鵬米キャンペーンの実施に伴い、東京滝川会員の皆様より約70万円に及ぶふるさと納税の申し込みがありました。ふるさとを想う皆様のご協力は滝川市の発展のために有効に活用されます。

滝川市では引き続きふるさと納税を募集しております。今年度はふるさと納税をしてくれた方全員に「なたね油」と「滝川市の施設等優待利用券」をプレゼントいたします。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

問合先：滝川市総務部財政課財政グループ

TEL:0125-28-8008

FAX:0125-23-5775